
片思い？

森健太

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

片思い？

【Nコード】

N6452L

【作者名】

森健太

【あらすじ】

高校2年生の大介は新一年生の入学式日の帰り道、校門で一年生と思われる女の子に声をかけられる。

徐々に仲良くなっていく2人。

一体女の子はだれなのか。

片思い？

岩田大介「はあくやつと入学式おわつたなあ？」

大介は小学校から幼なじみの親友、加藤豊に話し掛けていた。

豊「だな。…俺の予想どうりだったろ！？」大介「何がだよ、お前何か言つてたつけ？」

大介は何の事だかまったくわからなかった。

豊「忘れたのかよ、昨日言ったじゃん。こんな田舎の学校は可愛い子が入学してきたとしても1人が2人だつて。」

豊はがっかりしたように肩を落として言った。

大介「そんな落ち込むなつて。」

大介は豊の背中を叩いて言った。大介は恋愛の事など興味が全く無いのだ。今まで何度か告白されたが、何らかの理由を付けて断っていた。

その理由の一つが部活動だ。

大介はテニスが大好きだった。

テニスをやってる時は、嫌な事を全て忘れることができた。

だから、恋愛なんて物は大介にとってどうでもいい事だった。

豊「お前は誰か可愛いと思つた子いなかったのかよ？」

大介「うーん。お前みたいに変な目で後輩の女の子を見ないから。」

豊は疑うように顔を覗いた。

豊「ふーん、まあいいや。教室行ってカバン取っさつさと帰ろうぜ。」

そう言つて大介と豊は教室に行き、直ぐに学校をでようとした。

校門を出ようとしたその時、誰かが大介の肩を叩いた。

大介「ん？」

そこには一年生の女の子が立っていた。

人違いだと思ひ大介はそのまま行こうとした。

女の子「待って！！！」

そう行つて大介の袖を引つ張つた。

その声で数m先に居る豊は大介が女の子に話し掛けられている事に気づいた。

大介「誰!?!」

女の子は、目を見るのが恥ずかしいのか目を下に向けて

女の子「覚えてないんですか!?!」

と言つた。

そこに駆けつけてきた豊が耳元で

豊「この子誰?もしかしてお前、今まで俺に彼女が居る事内緒にしてたんじゃないだらうな?(怒)」

大介「いや俺も誰かわからないんだ(汗)」今の会話が聞こえたらしく女の子は

女の子「まだ、わからないんですか?」

大介「…うん(汗)」

大介と同時になぜか豊も頷く。

………妙な空気が流れた。

そして女の子は

女の子「朝比奈里沙です。」

と一言。

大介「…朝比奈…里沙?」

里沙「はい。(笑)」

大介「中学の時同じテニス部だった朝比奈!?!」

里沙「やっぱり先輩なんですね!?!」大介「ああ、大介だ!?!何か変わったな朝比奈(笑)」

里沙「先輩の方こそ変わりましたね。何かちょっとだけ格好良くなつた(笑)」

大介「まあな。朝比奈はテニス部入るのか?」

朝比奈「はい。その事を言いに来たんです。これからもよろしくお願ひします。また挨拶に来るんで、それじゃあさようなら。」

………。

豊「良い後輩やな。」

大介「うわっ！ー何だ豊まだいたんだ」

風が吹いたと同時に豊の顔が赤くなった。豊「いたらわるいんか！

！イチャイチャしやがってコノヤロー。」

大介「（笑）。まあそんな怒るな。早く帰ろっぜ」

豊は嫌そうな顔をして

豊「ちえっ。」

と言い2人共自転車をこいで家に帰った。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6452/>

片思い？

2010年10月28日07時42分発行